

一、算数の指導体系や各領域の関連を考慮し、児童の実態に即した指導計画に改善する。

(一) 個々の児童の現有学力の実態を的確には握し、児童が学習しやすい、適切な計画に改善する。

(二) 算数の指導体系や各領域のねらい内容を的確には握し、内容の取り扱いの程度、軽重、相互関連を考慮して時間的にゆとりのある計画に改善する。

(三) 数量や図形に関する基礎的な知識の習得と基礎的な技能の習熟に重点をおいて計画を改善する。

二、個々の内容のねらいや取り扱いの程度を明確にとらえ、指導内容の統合及び重点化を図り、教材を精選して指導効果をあげる。

(一) 算数科の目標、学年の目標、単元等の目標を明確におさえ、指導内容を重点化するとともに、指導内容がどう発展していくものなのかを的確には握しそれに合わせて教材を配列する。

(二) 低学年では、具体的な生活経験の中から、数・量・図形概念を抽象し、基礎的な理解や経験を得させ、しだいに数学的な見方が身につくように指導する。

(三) 中学年では、数範囲の拡大とあいまって、法則や原理的なものへの関心を高めたりして、物事を筋道を立

てて考えたりするように指導する。

(四) 高学年では、これまでに学習したことをもとにして、より高い観点からまとめたり、実際の場に能率よく活用したりすることができるよう指導する。

(五) 集合、関数、確率などの概念の指導については、児童の発達に即応して継続的、発展的に行われるよう配慮し、これらの観点に立つた見方、考え方が漸次育成されるようにする。

三、基礎的な知識の習得や技能の習熟と「数学的な考え方」の育成との調和を図る。

(一) 基礎的な知識の習得や技能の習熟にあたっては、過程をたいせつしながら、繰り返し指導し、定着を図るようにする。

特に、計算、作図、実測、分類整理などの活動を重視する。

(二) 既存の経験や知識、技能を新しく学習しようとするものに適用、発展させることができるよう、関連的な取り扱いに努める。

(三) 数学的な用語や記号を正しく用いて、事がらを簡潔にまとめたり、抽象化や一般化したりすることができるようにする。

四、学習指導の改善を図り、学習意欲を高めるとともに、学習をいっそう効果的にする。

(一) 児童自身が発見的、創造的に学習することができるとともに、学習のしかたを指導する。

(二) 個人思考と集団思考の関係を配慮し、児童みずからが問題解決の喜びを味わうことができるような学習指導をくふうする。

(三) 児童の学力の段階に応じた学習目標を設定したり、児童自身が学習の成果を正しく評価し、積極的に取り組むことができるような学習指導をくふうする。

(四) 学習資料の提示のしかたや教育機器の活用などをくふうし、算数に対する興味、関心を高めて、指導の効果をあげる。

中学校

数学の基礎的な知識、技能を身につけさせ、それらを的確かつ能率的に活用し、「数学的な考え方」の育成を図られるよう、次の点について努力する。

なお、新学習指導要領の趣旨を正しく理解するとともに、移行措置が円滑になされるよう、指導計画の作成及び学習指導には特に留意する。

一、数学の指導体系や各領域の関連を考慮し、生徒の実態に即した指導計画に改善する。

(一) 個々の生徒の現有学力の実態を的確には握し、生徒が学習しやすい、

適切な計画に改善する。

(二) 数学の指導体系や各領域のねらい内容を的確には握し、内容の取り扱いの程度、軽重、相互関連を考慮して、時間的にゆとりのある計画に改善する。

(三) 数量や図形に関する基礎的な概念や原理の理解と基礎的な技能の習熟に重点をおいて計画を改善する。

二、個々の内容のねらいや取り扱いの程度を明確にとらえ、指導内容の統合及び重点化を図り、教材を精選して指導効果をあげる。

(一) 数学科の目標、学年の目標、単元等の目標を明確におさえ、指導内容を重点化するとともに、指導内容がどう発展していくものなのかを的確には握しそれに合わせて教材を配列する。

(二) 集合・論理に関する内容については、他の領域の内容を表現したり、考察したり、思考を進めたりする際に多く用いられるものであるとの理解に立ち、他の領域の内容と関連して、必要に応じて適切に取り扱うようにする。

(三) 数・式、図形の指導については、重要な基礎となる領域としてとらえ体系的に取り扱い、指導の徹底を図るようにする。

(四) 関数、確率・統計の指導については、具体的な事柄を通して、見方考え方が漸次育成されるようにする。